

## eポートフォリオを活用したキャリア教育の試み

### Attempts of career education using e-Portfolio system

小林 政尚<sup>\*1</sup>, 池谷 知明<sup>\*2</sup>

Masanao KOBAYASHI<sup>\*1</sup>, Tomoaki IKEYA<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 拓殖大学商学部

<sup>\*1</sup> Faculty of Commerce, Takushoku University

<sup>\*2</sup> 早稲田大学社会科学総合学院

<sup>\*2</sup> Faculty of Social Sciences, Waseda University

Email: koba@ner.takushoku-u.ac.jp

あらまし：本稿では、学生の目標達成を支援するとともに、学生一人ひとりに合ったサポートが可能になる Web 上のデータベースで学生の目標や資格の取得状況などを管理する eポートフォリオについて報告する。また、これまで拓殖大学が実施してきた多彩な就職支援プログラムと学部教育とのさらなる連携を図り、専門知識を踏まえた実務能力の養成との実践結果を合わせて報告する。

キーワード：キャリア教育、ポートフォリオ、Eラーニング、遠隔教育支援

#### 1. はじめに

拓殖大学では履修相談などの学業上の助言や成績不良者への対応は教育職員である学生主事が行い、就職に関する基本相談は就職部の職員がアドバイスを行い、キャリアに関する相談は就職内定取得学生による SA アドバイザが相談を受ける複数のアドバイザによる包括的指導体制を取っている<sup>(1)</sup>。しかし、学生に困難な状況や問題が発生した際に、アドバイザに主体的に相談する学生は良いが、そうでない場合には、学生の詳細な実態を把握する手段がなく、 Semester 終了後の成績でしか学生の状況を推し量ることができない。文部科学省 中央教育審議会 大学分科会において審議されている学士課程教育の構築に向けて答申（案）<sup>(2)</sup>の中には、成績評価の改革の方向として、学生の学修履歴等の記録と自己管理のためのシステムを開発することは、学習成果を重視した評価の条件整備として重要であるとしている。また、具体的な改善方策として、学生が自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み（いわゆる学習ポートフォリオ）の導入と活用を検討することが挙げられている。

本研究では、拓殖大学の特色を十分に考慮した電子ポートフォリオシステムを実現するための要求分析を行い、キャリア力養成を目指したポートフォリオシステムを構築運営した<sup>(1)</sup>。

また、対面支援の両面からキャリア力向上の実現を目指した本稿ではこれまでの活動を報告する。

#### 2. キャリア支援内容

雇用状況が低迷している現在の社会を生き抜いていくためには、エンプロイアビリティ（雇用されうる能力、雇用を継続させる能力）の獲得と向上が不可欠である。「eポートフォリオを活用したキャリア力養成プログラム」では、社会に求められる確かな

キャリア力と、社会の動きを敏感にキャッチし柔軟に対応できる力を育むことをめざし、以下の取り組みを進めている。

##### 2. 1 eポートフォリオの導入

eポートフォリオとは、Web 上で学生のキャリアプランを記録し、定期的な振り返りや気づきによるプランの修正、資格取得状況などを管理できるシステムである。これにより、学生情報を「学生カルテ」として教員や職員が共有し、個々の目標と現状を踏まえた的確なアドバイスが可能になる。さらに、1年次からの記録を蓄積していくことで、将来の目標やそれを達成するための気づき、振り返りが容易になる。キャリアプラン達成へのモチベーションを高めることができるだけでなく、学生自身の自己管理能力や自己実現能力の向上につながっていくものである。「My 履歴書」への入力項目が増えるにつれてキャリア力が増していることを実感できる。本稿においてはこの取り組みにおいて作成されたキャリア力向上のための eポートフォリオシステムを以降単に eポートフォリオと呼ぶこととする。

##### 2. 2 ITシステムの連携

求人情報や会社説明会などの情報をリアルタイムで閲覧できる「就職 Web」や、Web 上で授業の資料や内容を確認できる「ブラックボード」などといった既存のシステムと eポートフォリオを連携することにより、就職支援と学部教育を一体化したより効果的なキャリア教育の環境を整えている。

##### 2. 3 企業合同セミナーの開催

本学の就職部が推薦する優良企業を招き、本学の学生のためだけに開催される大規模な会社説明会を実施している。例年約 200 社が集結し、ブース形式で企業の方々に直接対話することができる。毎年多くの学生が参加企業への内定を獲得しており、就職に直結する本学最大のイベントである。

##### 2. 4 SPI 模擬試験の無料実施

多くの企業が就職試験に取り入れている SPI. 適性検査ともいわれるもので、学生の能力や性格の適性を図るテストである。本学では、キャリア力養成の一環として、1年次から SPI 模擬試験を実施する。学生が企業に求められる能力や各自の課題を早期に認識し、就職試験までに弱点の克服をめざす。

## 2. 5 モバイルサイトの開設

携帯電話からアクセスできる就職情報サイトを開設し、就職に有用な情報をリアルタイムで配信する。自宅や大学のパソコン以外に、外出先でも本学が提供する就職情報をチェックすることができるため、忙しい就職活動中も安心。将来の夢に向かってがんばる学生を多角的にサポートする。

## 2. 6 TA・SAのサポート

TA (ティーチングアシスタント) や SA (学生アシスタント) として、先輩学生が後輩の学習や就職活動を学生ならではの視点でサポートする。就職内定者が自己の体験をもとにアドバイスするなど、下級生が就職活動をより身近なものとしてとらえ、早期に就職意識を高めることができる。

## 2. 7 他団体の視察および講習会

学生への有益なアドバイスや就職サポートを行うため、企業の採用方法や他大学のキャリア教育に関する情報を積極的に調査・収集している。社会の動向を分析し、基礎データとしてさまざまな学生のニーズに合った情報を提供し、学生のキャリア力・就職率の向上につなげる。

## 3. eポートフォリオシステムの成果

今回構築した eポートフォリオシステムは図1のような遷移で利用されることを想定している。1年生時から学生の自己紹介、課外活動やボランティア活動、留学経験など履歴書制作を中心に手がけ、初年次教育から自分でキャリアを作り上げることを意識させ、SPI 結果や試験対策システムとの連動で不得意分野の発見と克服、TOEIC テストに

取り組むなど、意識向上をめざした。

教員のアンケートでは一定の評価があった。特に目標を設定させ、決まった期間内に振りかえりを行わせ、目標管理と反省、目標再設定を実施させた。教員は進捗状況を確認して滞りの有無、取り組みの困難性をチェックしてアドバイスを رفتたり、システムへの書き込みを行うよう促した。そのためシステム利用度の高い学生には、システム利用の効果があると評価された。長期に海外留学している学生からは対面相談の代わりになり、大学とつながっている、支援されている安心感もあると高評価であった。しかし、このシステムは対面面談支援の補助的な利用となっており対面指導での効果が大きく、eポートフォリオのみの指導は現実的ではない。

## 4. おわりに

現在 eポートフォリオシステムの 2013 年 6 月現在の登録率は教員 16%、利用率は教員で 4%、学生で 24% である。このシステムは全学的に利用されるよう利用率向上を目指さなくてはならない。

現状では、利用率の低い学生へ励ましのメールを自動送信したり、目標実施のためのリマインダ機能が機能していないので教員が定期的にチェックする必要がありこの点が問題点として指摘される。

また、倫理的な面を考慮してこれまでゼミナール科目のみに絞って「指導する・される」(1 学生に 1 人の教員を割り当てる) の関連づけを行ってきた。よってすべての科目、クラスもしくは課外活動のグループなどで利用できるわけではなく、1 人の学生に複数人の教職員が指導できるようになってほしいと学生からの要望もある。

今後は、これまでの取り組みの総括を行い、全学で学生、教職員ともに向けて詳しく評価を行いたい。今年度全学的に委員会が策定され、これらの問題点を中心に解決を図りシステムの改変を続けていくことが期待されている。

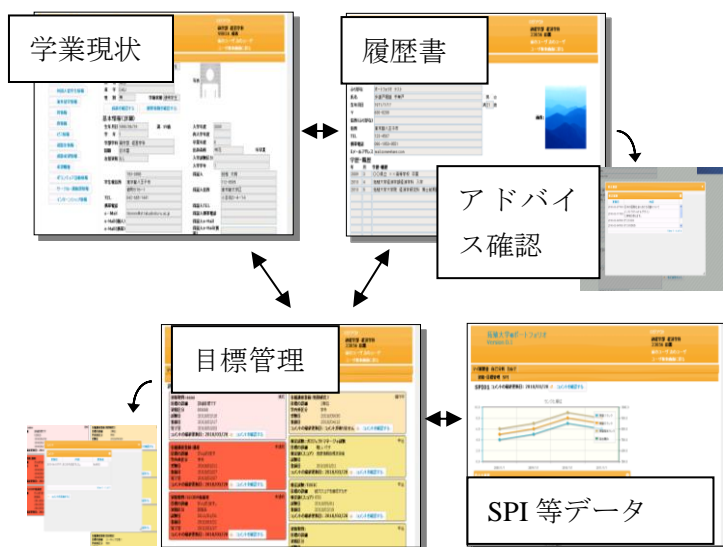


図1 eポートフォリオの利用イメージ

## 参考文献

- (1) 平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム」、『eポートフォリオを活用したキャリア力養成プログラム』(2009)  
<http://www.csr.takudai.jp/gp/career>
- (2) 文部科学省中央教育審議会大学分科会、「学士課程教育の構築に向けて答申(案)」、『文部科学省中央教育審議会大学分科会(第 71 回)議事録』配布資料(2008)
- (3) 文部科学省監修『平成 19 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」事例集』、独立行政法人日本学生支援機構(2008)
- (4) 平成 18 年度「特色ある大学教育支援プログラム『学ぶ意欲を引き出すための教育実践 - KIT ポートフォリオシステムを活用した目標づくり -』報告書」、金沢工業大学(2006)
- (5) 初年次教育学会、「初年次教育の現状と未来」、世界思想社(2013)